石川・森（もり）ガッコウ遺跡

1　所在地　石川県かほく市森

2　調査期間　第一次調査　二〇〇四年（平16）九月～一一月

3　発掘機関　㈶石川県埋蔵文化財センター

4　調査担当者　本田秀生・金山哲哉

5　遺跡の種類　集落跡

6　遺跡の年代　奈良時代・平安時代～中世

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

森ガッコウ遺跡は、かほく市森集落の北二〇〇mの沖積平野に位置する、奈良・平安時代～中世の集落跡である。第一次調査はパイプラインと排水路部分の調査で、調査面積は八二〇㎡である。調査の結果、一辺九〇cmの方形柱穴をもつ二間×三～五間の掘立柱建物一棟のほか、複数の規模不明の建物、集落の東限を示すとみられる奈良・平安時代の幅約五mの水路（四二号溝）などの遺構を検出した。

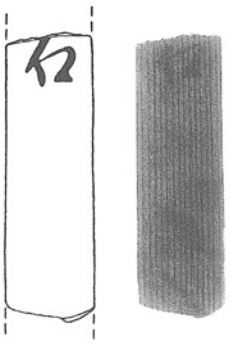
（津　幡）

木簡は、この四二号溝から一点出土した。同水路からは、多量の須恵器・土師器のほか、「石山」「仁」「千」「田中」「壬」（あるいは「千一」）と書かれた墨書土器や斎串も出土している。

なお、二〇〇五年に行なわれた第二次調査でも、主軸を東西・南北に揃えた古代の掘立柱建物六棟以上と区画溝、中世の井戸三基などの遺構を検出し、墨書土器「田中」や転用硯などの遺物が出土した。

8　木簡の釈文・内容

(1)　石　　(760)×23×3　081

表裏両面及び左右両辺はケズリ調整が施され、上下両端は二次的なキリオリ。柾目材。付札木簡と考えられる。

（金山哲哉）